

【課題と向き合い希望へつなぐ 小さな拠点づくり事業】-岩手県住田町立下有住地区公民館-

キーポイント: ワンチーム下有住「自分達でできることは、自分達で」

1. 事業の内容・工夫

(1)実施主体

住田町立下有住地区公民館、下有住いきいき協議会

(2)連携・協働団体

下有住地区内 4自治公民館、町社会福祉協議会等

(3)実施内容

◆下有住を語る会

年に一度、地区住民が一堂に会して、**地域課題を共有し、解決策を協議。**

◆そば蒔き・そば打ち

遊休農地の活用と子供達への食文化の伝承を目的として実施。農地作り・そば蒔き・収穫・そば打ちまでの一連の流れを体験できる。また、この事業を新たな仕事の場につなげる取り組みも検討中。

◆大収穫祭

地元産食材を活用しての料理や、郷土芸能発表、全員参加の長いのり巻き作り等、参加者自らが作り上げる地域の一大行事となっている。

◆昔ながらの手作り結婚式

地域の伝統的な結婚式の在り方を掘り起こし、式に関わる伝統芸能や、料理等の風習を伝承。希望するカップルの挙式を行っている。

◆よりあいカフェ なるせ

利用を限定せずに、障害がある方、家族、地域住民、介護や医療の専門家等様々な人が集い、自由な雰囲気の中で支え合いの仕組み作りに取り組んでいる。

取組の工夫

☆地区内自治公民館へ直接出向く！

⇒年齢や交通事情等で来館が困難な住民にも事業や情報を直接提供している。

☆いつ何時も住民が主役！

⇒地区公民館発信の事業だけではなく、住民発信の活動にも積極的にに関わり、支援。
⇒信頼関係から、さらなる事業展開が可能。

☆世代間交流を前提に！

⇒児童館が併設されていることから、子供達をメインとする事業にも特徴があり、多様な世代間交流を活発に行っている。
⇒次世代の下有住を、楽しみながら共に作り上げる仲間づくりを進めている。



3. 担当者の所感、参加者の声

・どの事業も、「地域の景観や伝統を守ろう、残そう」という、地区住民の地域愛や想いが溢れるもので、欠かせない事業になっている。

・子供達には、上の世代と関わる楽しさや、自らも地域の大切な一員であるという自覚を持つ機会となり、大人達にはその子供達の参加が活力となっている。

4. 今後の展開

・次年度以降の実施予定について→**継続して実施**

【今後の目標】

- ・事業を住民の仕事へつなげる工夫を。
- ・女性の声に耳を傾け、意欲の支援を。

継続が地域の力に！

2. 事業のきっかけ（取組の背景）

○昭和48年～「下有住を語る会」(年1回開催)の存在

下有住地区から、町役場の支所を始めとした公の施設が廃止されていく中でコミュニティの在り方を再検討すべく発足し、現在も継続して開催。

⇒地区住民の「**自分達のことは自分達で！**」の基本的な意識を支える。

○平成29年度～「小さな拠点づくり」(町事業)へ派生

⇒地域の不安を取り除き、暮らしの安心を守る「**心の拠り所**」を目指す。

ついに町全体でも！